



- 第12回全国和牛能力共進会 島根県 総合評価群 肉牛で日本一!!
・安来市 田口好美氏 第3区(若雌の2)に県代表で出品 優等賞14席
- 飼養衛生管理基準の定期報告書の提出をお願いします
- 県西部で野生いのししに豚熱ウイルスの感染が広がっています
- 高病原性鳥インフルエンザ、例年より早く野鳥で検出!

第12回全国和牛能力共進会 島根県 総合評価群 肉牛で日本一!! 安来市 田口好美氏 第3区(若雌の2)に県代表で出品 優等賞14席

10月6～10日に鹿児島県において開催された第12回全国和牛能力共進会には、各道府県から約450頭が集まり、厳正な審査の結果、島根県からの出品牛(21頭)は、大変素晴らしい成績を獲得しました。

安来市の田口好美氏は、第3区(若雌の2)の県代表牛として、全国から選抜された32頭の中で優等賞14席となりました。全国14位は十分に賞賛される成績であり、田口氏と関係者の皆様の取組に敬意を表します。

大会で最も注目される第6区(総合評価群)の肉牛部門(3頭一組、久茂福)においては、島根県が日本一の栄冠に輝きました。さらに3頭の中の1頭(JAしまね吉田肥育センター)には、特別賞の「脂肪の質賞」が授与されました。

全国1位となった第6区の肉牛部門3頭のうち2頭と、全国2位となった第7区(脂肪の質評価群：百合久勝)の3頭、やはり全国2位となった第8区(去勢肥育牛、久茂福)の1頭の計6頭の出品者である(有)藤増はすべての牛が素晴らしい成績を獲得し、まさに日本一の肥育生産者と成りました。

その(有)藤増の藤江会長が、インタビューにおいて「素牛が全て、関係機関、生産者の連携のたまもの」と答えています。今回、県内で全共の肥育素牛を得るために、5年間を掛けて県内トップクラスの超優秀な雌牛から約240個もの受精卵を作出し、繁殖農家や酪農家の協力を得て移植を行って超優秀なET産子を創出し、その子牛たちが卓越した技術の育成・肥育生産者に繋がりました。県内の多くの牛飼養農家と関係者が一体となった取組が、今回の素晴らしい成果をもたらせました。大会の出品者だけではなく、この全共に関わった全ての県内の生産者と関係者の皆様の尽力が、この快挙に繋がっています。

さらに、出雲農林高校の若人たちが全国5位の成績を挙げた上に、特別賞も獲得したことは、しまね和牛の将来に続く輝かしい成績です。

全ての生産者並びに関係者の皆様に深甚なる敬意を表するとともに、今回の全共が、今後のしまね和牛の振興に大いに活かされていくことを期待しています。



